

## 当院における骨粗鬆症リエゾンサービスの取り組み

堀中病院 整形外科看護師 岡崎 康子  
森川さなえ  
橋本久美子  
整形外科 堀中 晋

当院のリエゾンサービスの目的は、

1. 『骨粗鬆症性骨折後と骨粗鬆症の治療継続率を上げる』
2. 『かくれ骨粗鬆症の早期発見』

の2大テーマで活動しております。それぞれのテーマについて4つの活動内容を紹介します。

上記1に対しては、①退院時指導、②カルテに目印を行っている。

①は、院内統一のリーフレットを使用し、説明内容の統一化をした。患者様本人だけでなく、キーパーソンとなる方にも同席していただくことにより、治療継続の重要性を理解していただいている。注射管理手帳、連携手帳を使用し退院先でも当院の治療経過を明確にした。

②は、外来カルテ表紙にカラーテープを用い次回DXA検査日、薬剤名、処方日、採血日を記入した。テープの色は全科共通とし、これにより他科受診時、会計時等他職種のチェック機能がはたらか、検査、処方がスムーズに行えるようになった。

上記2に対しては、③骨の問診票、④院内掲示物を行っている。

③は、当院オリジナルで作成し4大骨折の有無、両親の大腿骨近位部骨折の既往歴、身長の変化の3項目とした。女性60歳、男性70歳以上を対象とし、他院での治療内容も確認が容易となった。

④は、製薬会社や医師会から配布されるものを使用し、患者様に骨粗鬆症について興味を持ってもらえる物を、各外来、リハ室前、XP室前等に掲示した。③④は、骨密度検査を推奨するきっかけとなる。

結果として、骨粗鬆症治療薬処方者数は、2016年を100として、17年は114%、18年は125%となりました。

続いて骨密度検査受診者数は、2015年を100として、16年は152%、17年は163%、18年は175%とどちらの数字も上昇傾向にあることから、1、2共に改善したと推測されます。多職種協働にて少しの工夫と、注意を向けることにより成果があがる事をご紹介いたしました。